

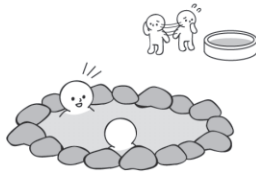
創造を支援する。パターン・ランゲージ

総合政策学部 准教授 井庭 崇いば たくし

学びの対話ワークショップ

まずはつかる

Jump In

よくわからないからこそ、
まずはどっぷりつかってみよう。

況、その分野が自分に合っているかどうかについて、いつまでも迷っているは何も始まりません(問題)。このような問題に陥らないためには、興味・関心があることを思い切って始めてみて、その世界に飛び込んでから、本当に自分に合うのかを考えるとよいでしょう(解決)。なぜなら、その世界に浸かって初めて見えてくる

こと・実感できることがあるからです。これが、「まずはつかる」という名前のパターン(秘訣)です。このほかにも、「言語のシャワー」を浴びるように外国語に触れるというパターン、自ら「学びの共同体をつくる」というパターンなど、学びのいろいろな場面・段階での秘訣が40個あります。湘南藤沢キャンパス(SFC)では、2009年からこれらをまとめた冊子を全1年生に配布し、学生たちの主体的な学びのデザインを支援しています。入学直後には、ラーニング・パターンを共通言語にして自らの学びの経験を語り合う、対話のワークショップも行っています。3年間で3000人近い学生が参加し、自分なりの学び方を考えるきっかけになっているようです。私の研究室では、学びに関するもの以外にも、プレゼンテーションやコラボレーション、防災などのパターン・ランゲージを作成・発表してきました。今年、企業・組織における活用をテーマとした研究コンソーシアムを立ち上げる予定なので、さらに多くの分野でパターン・ランゲージが使われるようになると期待しています。

創造的な活動を支援するものとして、パターン・ランゲージという新しく魅力的な方法があります。パターン・ランゲージでは、創造活動の背後に潜む「共通パターン」を「言語化」します。つまり、創造における秘訣を「どのような《状況》でどのような《問題》が生じやすく、それをどう《解決》すればよいのか」というかたちで記述し、それに《名前》をつけるのです。ここでは、「創造的な学び」を実践するコツをまとめたラーニング・パターンを例に、少し具体的に紹介したいと思います。ラーニング・パターンのひとつ「まずはつかる」というパターンは次のような内容になっています。研究や勉強など、何かを学び始めるときには(状

こと・実感できることがあ